手作り紙芝居

「10・２」――世界平和の日

導入部

10 月２日は「世界平和の日」です。池田先生が初の海外指導へと出発したこの日は、今日、世界 192 カ国・地域へと広がっているＳＧＩ（創価学会インタナショナル）の連帯への第一歩ともいうべき日です。この「世界平和の日」の意義をともに学んでいきましょう。

１枚目／初の海外指導へ　（8 枚目の絵の裏に貼る）

昭和35（1960）年 10 月２日、澄んだ秋空が広がるこの日、池田先生をはじめとする一行が羽田の東京国際空港から、アメリカのハワイに向けて旅立ちました。第三代会長就任の日からわずか５カ月、多くの会員に見送られるなか、初の海外指導への出発でした。

２枚目／新しき歴史を、この手で　（１枚目の絵の裏に貼る）

この年の５月３日、創価学会の第三代会長に就任した 32歳の池田先生の胸には、「新しき歴史を、この手で、断固、開くのだ」との決意の炎が燃え上がっていました。それは、世界への広宣流布という未曾有の戦いの開始を意味するものでした。世界広宣流布は日蓮大聖人の御遺命であるとともに、第二代会長戸田城聖先生から託された使命でもあったのです。

３枚目／大きなカバンの贈り物　（２枚目の絵の裏に貼る）

池田先生が、第三代会長に就任したその日、会長就任のお祝いとして、記念の品を贈ろうとする香峯子夫人に対し、池田先生は大きくて丈夫な旅行カバンを希望しました。

「そんなに大きなカバンを持って、どこにお出かけになりますの」と問う香峯子夫人に、池田先生は「世界をまわるんだよ。戸田先生に代わって」と答えました。（小説『新・人間革命』第一巻「錦秋」の章）

会長就任のこの日、池田先生の広宣流布への思いは、日本のみならず、世界に向かっていたのでした。

４枚目／師の声を胸に、世界へ　（３枚目の絵の裏に貼る）

海外指導へと旅立つ池田先生の胸ポケットには、恩師・戸田先生の写真がありました。戸田先生は逝去の直前、池田先生（当時、青年室長）に対して次のように語っています。

「行きたいな、世界へ。広宣流布の旅に」「君の本当の舞台は世界だよ」「世界へ征くんだ」と――。

旅立ちの日を 10 月２日に決めたのは、２日が戸田先生の月命日にあたるからでした（祥月命日は４月２日）。

５枚目／ハワイへの第一歩　（４枚目の絵の裏に貼る）

最初の訪問地であるアメリカのハワイには、健気に信心を続けてきた日本からの移住者や日系人など、少ないながらも学会員がいました。池田先生はそんな一人ひとりを全力で励まし、信心の楔を打ち込んでいきました。世界広宣流布という壮大な目標から見ると、きわめて地道な戦いではありましたが、“一人の蘇生なくして世界広布の実現はない”との信念がそこにはあったのです。

６枚目／アメリカの「三指針」　（５枚目の絵の裏に貼る）

各地で渾身の指導を続ける池田先生は、アメリカの学会員に対して３つの指針を示します。それは、「１.市民権を取り、良きアメリカ市民となること　２.自動車の運転免許を取ること　３.英語をマスターすること」の３点でした。これは、一人ひとりがそれぞれの使命を自覚し、よき市民としてしっかりと地域に根を張っていくことこそが、広宣流布につながっていくのだという、深い考えに基づくものだったのです。この指針は、当時のアメリカの同志の、誓いの「三指針」となり、勇気の源泉となっていきました。

７枚目／渾身の力で同志のもとへ（６枚目の絵の裏に貼る）

この初の海外訪問は、アメリカのハワイをスタートに、サンフランシスコ、シアトル、シカゴ、カナダのトロント、アメリカのニューヨーク、ワシントン、ブラジルのサンパウロ、そして再びアメリカのロサンゼルスというように、３カ国９都市を 24 日間（同月25 日帰国）でまわるという強行軍でした。池田先生は、連日の激務による高熱に襲われながらも、目の前の同志を全力で励ましていきました。

初の海外訪問の際の心情を、池田先生はこう語っています。「旅の間、ともかく題目を唱え続けた。飛行機でも、車でも、街を歩いていても。妙法の種を、この国の大地に植えつけ、しみ込ませるのだという決心だった」

８枚目／新しき開拓を誓う「世界平和の日」　（７枚目の絵の裏に貼る）

「新しき開拓に、困難と労苦が伴うのは当然である／それを突き抜ける炎のような覇気と闘争によってのみ、広布の開拓はなされるのだ」（小説『新・人間革命』第一巻「錦秋」の章）

この池田先生の言葉のとおり、命を削るような激闘によって、世界広布への大道が開かれ、現在のＳＧＩの大発展へとつながっていったのです。私たちも、それぞれの尊き使命を胸に、世界に広がるＳＧＩの友と「新しき開拓」の道を朗らかに進んでいきましょう。

決意など